

令和2年度 帰宅困難者対策の訓練結果等について

★1 実施結果

1 訓練の目的

大地震発生時に川崎駅周辺で発生した帰宅困難者に対する、駅での対応及び一時滞在施設での開設訓練を実施する。

なお、今回は新型コロナウイルス感染症を踏まえ、帰宅困難者役による滞留や避難を伴わず、駅での対応は図上訓練形式とし、一時滞在施設での開設訓練については、感染症対策物品を使用した受入訓練に主眼をおいた。

2 実施日時

令和3年2月16日（火）9時15分～10時10分

3 訓練内容（参加機関）

（1）帰宅困難者対応図上訓練（JR 川崎駅）

事務局で作成した、様々なパターンの帰宅困難者の想定に対し、駅係員がどのように対応していくかを、例年のような通路に滞留させることはせず、図上訓練形式で実施いたしました。

（2）一時滞在施設開設訓練

（川崎アゼリア、川崎日航ホテル、川崎商工会議所、産業振興会館）

新型コロナウイルス感染症を踏まえて作成した、「感染症対策ポケットガイドみんなで考えよう！避難所で気をつけること」などを踏まえ、フェイスシールドなど感染防護衣の着装のほか、非接触型体温計や消毒液等の活用などについて手順等の確認を行いながら訓練を実施しました。

（3）情報受伝達訓練（各一時滞在施設）

各駅・一時滞在施設に配備している無線機を使用し、動作確認および実際に想定される対応内容の確認を行いました。

5 訓練想定

15時30分、川崎市直下の地震（M7.3、川崎区、幸区で最大震度6強）が発生し、市内全域で大きな被害が出ている。川崎区・幸区合わせて、6,000人以上の死傷者が発生し、約2割の世帯で建物全壊、半壊となっている状況である。電気、ガス、水道等のライフラインについては半数以上の世帯で機能損傷が生じており、電話についてはほとんど通じておらず、携帯電話による通常の通話は不可能である。川崎駅周辺の商店街等の状況は、ビルの看板の落下、窓ガラスの破損等が多く発生しており、店内においては商品、什器の散乱は著しい状況である。

7 報道状況

YOU テレビ・東京新聞

★2 一時滞在施設開設訓練の様子

川崎アゼリア

受付準備



受入の様子



待機スペース

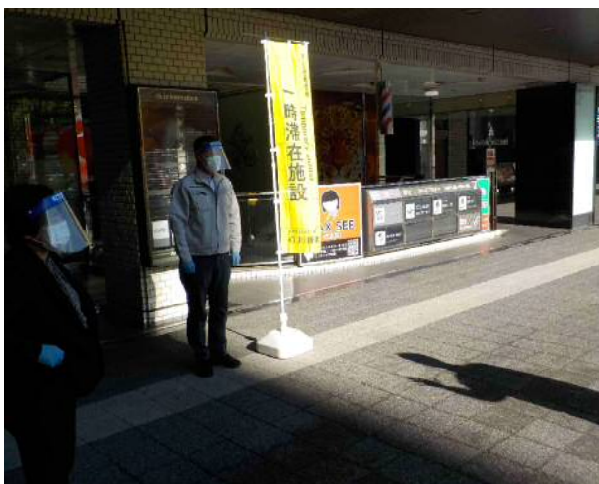


デジタルサイネージ



川崎日航ホテル

のぼり旗の設置

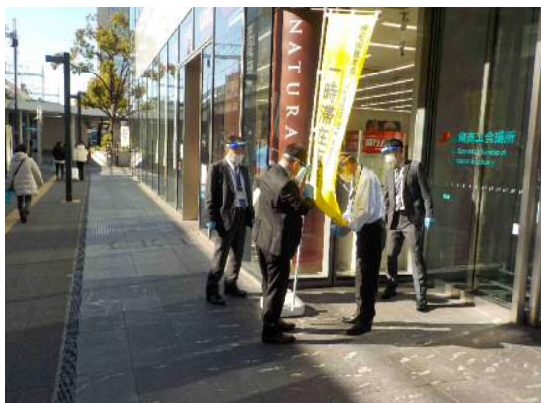


受入訓練



川崎商工会議所

のぼり旗の設置



受入の様子①



受入の様子②



産業振興会館

のぼり旗の設置



受入の様子



掲示物



★3 一時滞在施設へのアンケート結果

1. 開設準備段階(受付・滞在スペースの設置、物品の準備等)で気付いたことや改善した方がよいと思われることなどありましたか。感染症対策を踏まえてあれば併せて教えてください。

- ・今回は訓練であり、受付の設置や物品の準備など対応ができたが、普段から利用がある施設のため、災害時には同様の受付方法で行うことができるのが課題である。
- ・コロナ禍で例年とは異なる形式の中、フェイスシールドや手袋など、受付スタッフや受付に至るまでの感染症対策は徹底されていたが、体調がすぐれない方の来場を想定するなかで利用者登録カードの記入場所や記入時使用した鉛筆など周辺環境の除菌ができるような対策があれば、より安心してご利用いただけたと思った。

2. 帰宅困難者の受付・誘導時で気付いたことや改善したほうがよいと思われることなどがありましたか。感染症対策を踏まえてあれば併せて教えてください。

- ・今回の感染症対策（フェイスシールド、手袋、検温等）を踏まえての、受付、誘導訓練実物の器材の取り扱いができて有益であった。ただし、検温計測等の受付カードへの記入に関しては、所要時間がかかるため、受付誘導に渋滞をきたしていた。
- ・建物入口から受付までのルートについては、混雑が予想されるため、感染症対策を踏まえると間隔を空けて並んでいただく必要があり、誘導時の声掛けや貼紙を用意するなど対策が必要だと感じた。
- ・利用同意書を記入していただくペン（鉛筆）を「使用前のもの」と「使用後のもの」を分ける箱等を準備する必要があると感じた。
- ・感染症が疑われる症状の方を施設での受け入れが困難な場合に、情報伝達の中で、開設している施設のほか、感染症が疑われる方の受入が可能かどうかについても共有できるとよいと感じました。

3. 今回は、訓練の規模を縮小し、感染症対策に配慮した訓練を実施しました。訓練に関するご感想やその他今後の川崎駅周辺帰宅困難者対策において実施・検討したいことがあれば教えてください。

- ・今回の訓練の時間帯が、テナントの営業時間帯と重ならず、訓練参加ができた。来年度以降もできればテナント営業時間帯をさけて訓練時間帯を設定していただきたい。
- ・訓練規模の縮小に伴い、無線でのやり取りと実際の受入れの段取りに、タイムラグが生じていたため、流れをイメージしにくい部分があった。
- ・受付で使用する物品（感染症対策物品含む）については、普段から施設に預けていただけると緊急時の受付開設がスムーズなため、今後対応をお願いしたい。
- ・規模は縮小したが、感染症対策を意識した訓練が実施できてよかった。

★4 まとめ

今年度の訓練では、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、訓練規模を縮小し実施した。駅における訓練も例年とは異なり、図上訓練形式で実施したが、各職員が内容を把握し実災害でも活かせるよう実施することができた。また、一時滞在施設においては、感染症対策物品を使用し、その受入方法について確認することができた。

次年度の訓練では、今回の訓練でた課題をもとに内容を創意工夫し、実施していく。